【学校教育目標】 夢に向かって　自ら学ぶ　豊かで　たくましい生徒

黒西中だより

http://kuronishichu.style.coocan.jp/　TEL　048-768-5454
心のホット相談室　TEL　048-764-1110

第　10　号
令和２年２月３日
生徒数　１年　９２名　３学級
２年１０４名　３学級
３年１０５名　３学級
合　計　３０１名　９学級

「後楽園」　～スキー林間学校を終えて～

教頭　藤間　博志

１月21日（火）から23日（木）まで、第1学年は新潟県南魚沼郡湯沢町で「スキー林間学校」を実施しました。初日は雪、2日目は快晴、最終日は小雨の中での実習と、3日間、様々な気象条件の中での実習でしたが、本当に素晴らしい体験となったようでした。

スキー実習を終えた後、スキースクールの井上　美知校長先生が、私に、こんなことを言ってくださいました。「黒浜西中学校の生徒は、実習中、担当の先生の言うことを良く聞いて、楽しそうにスキーをしていました。学校生活でも、スキー実習で学んだことをいかして頑張ってくれそうですね。」と。また宿泊施設の支配人さんからは、「礼儀正しく明るい生徒さんで、挨拶もしっかりできていました。これからも明るく元気に学校生活を送って下さい。」と1年生の皆さんに伝えるようお願いされました。同行した看護師さんも、1年生が、素直で挨拶もしっかりできていたことに加え、「年間で30～40校の宿泊行事に同行しているが、こんなに怪我や体調を崩す人がでなかったのは初めて」と言って下さいました。そういった点で、スキー林間学校は大成功であったと思います。

さて、話は変わりますが、スキー林間学校のような行事で、私は、よく「後楽園」という言葉を思い出します。「後楽園」と言うと、今では知る人も少なくなったかもしれませんが、現在の「東京ドーム」ができる前、「後楽園球場」という野球場がありました。ですが今回の「後楽園」は、それよりも、ずっと前の江戸時代に遡ります。大日本史編纂で有名な徳川光圀公（テレビ時代劇「水戸黄門」のほうが、もっと有名かもしれません）が「天下（てんが）を治むる者は、天下の憂いに先んじて憂い、天下の楽しみに後（おく）れて楽しむべき」と、小石川（現在の東京ドームの北側の「小石川植物園」の地）に「後楽園」という保養施設を作ったとされています。（実際は改修）

もちろん、江戸時代のような身分制度の中での天下がいいか悪いかは別として、行事に限らず、何かを成功させるためには、この「後楽園」の考え方は大切だと感じます。行事の実行委員や、もちろん、実行委員以外の様々な担当もそうですが、自分のことより、まず、全体のことを先に考えて頑張ることが大切なのです。今回のスキー林間学校では、様々な場面で自分のことより全体のことを先に考えて頑張る人たちの姿を見ることができました。現在の黒浜西中学校の2･3年生も、数多くの生徒がそれぞれの役割の中で「自分のことよりも、まず全体」と考えて学校生活を送っています。これからも、この「後楽園」のような精神で、学校生活を送っていくことを期待しています。